

企画展示報告 2 越前戦国演義—戦雲の果てに—

開催期間：平成 29 年 9 月 30 日～11 月 5 日 主催：鯖江市・鯖江市教育委員会

戦国時代の越前・鯖江

但馬国の豪族であった朝倉氏は、南北朝時代に越前国守護であった斯波氏に従って越前に入国し、勢力を定着させた。その後、朝倉孝景（英林）が応仁の乱に乗じて越前を支配し、この頃から一乗谷に本拠地を移して、5 代約 100 年にわたり栄華を誇った。当時衰退しつつあった室町幕府は越前朝倉氏を最も信頼していたとされる。

朝倉氏の城下町一乗谷は、人口約 1 万人を擁する有数の城下町となり、戦火を逃れた多数の文化人により華やかな京文化が持ち込まれ、「北ノ京」と呼ばれた。

一方、鯖江では、10 世紀末に比叡山延暦寺末となった長泉寺が、中世以降、鯖江地域の宗教的権威となっており、朝倉義景・織田信長およびその配下武将らが多数の感状・安堵状を送っている。特に朝倉氏との関係は密接で、朝倉孝景（英林）が寺領 2000 石を寄進して朝倉氏の祈願所と定め、長泉寺も朝倉氏の出陣には陣僧を派遣したことが史料から確認できる。また、15 世紀頃から北陸に進出してきた新仏教である浄土真宗に対しては、長泉寺はこれを激しく批判していた。

天正元年（1573）、朝倉氏が滅亡すると、織田信長は朝倉氏旧臣を登用するが、翌天正 2 年、その一人である富田長繁が土一揆を扇動し、越前一国を支配した。しかし、内部対立から一向一揆の介入を許し、富田は反本願寺である誠照寺・證誠寺等を味方に付けて、両軍は鯖江長泉寺周辺で激突した。その結果、富田は討ち取られ、以後、越前は一向一揆の支配下となる。長泉寺はこのとき一揆軍により全山焼失した。

天正 3 年、武田氏を滅ぼした織田信長が満を持して越前に侵攻した。一向一揆は西光寺門徒らが木の芽峠で迎撃するが敗北、一揆は平定され、北ノ庄には柴田勝家が入城した。その後、関ヶ原合戦および大坂の陣を経て徳川家康の治世になると、その 2 男である結城秀康が北ノ庄に入り、その跡を 2 代松平忠直が継いだ。

慶長 20 年（1615）、大坂夏の陣に参戦した松平忠直は真田信繁隊を壊滅させ、大坂城一番乗りを果たすなどの大活躍を見せたが、その恩賞は従三位参議左近衛権中将への昇進と茶器「初花肩衝」のみであった。将軍家への不信感を募らせた忠直は江戸への参勤を怠り、正室勝姫（二代将軍秀忠の娘）の殺害未遂などの乱行を繰り返したとされ、元和 9 年（1623）には将軍秀忠によって、豊後府内藩に配流・謹慎処分となる。しかし、忠直の乱行に関する記事は真偽が疑わしい箇所が多いとされ、鯖江や豊後国ではその内政手腕によって名君



富田長繁の墓碑
(鯖江市長泉寺町)



松平忠直の供養等供養等
(鯖江市 長久寺)

と慕われていたことから、忠直の配流処分については幕府による「陰謀」説がある。

北陸道の整備

関ヶ原の合戦の後、北ノ庄城に入城した結城秀康は戦乱で荒廃した領国の再建に着手し、特に街道整備に力を入れた。鯖江では鳥羽野の開発と街道整備が急務であった。

当時、鯖江台地北部に広がる鳥羽野は荒涼たる萱原で、北陸道は当地を迂回し台地東方を通過していた。秀康は街道の直進化と街道沿いの町並み形成を優先したのである。秀康は34歳で早世するが、2代藩主松平忠直はこの事業を継承、家老本多富正、奉行渡辺牛兵衛に命じて、街道整備を推進した。本多らは街道沿いに移住する者には土地の無償提供と諸役免除などの特典を与え、自らも率先して屋敷を構えて治安維持に当たり、台地東方にあった田所・岡野・鳥羽中・西鳥羽・鳥羽（東鳥羽）の5ヶ村に対して街道沿線への移住を促した。この結果、新しい町並みが形成されていき、遅くとも19世紀前半頃には東鳥羽を除く4ヶ村が全村移住したのである。

展示

本展では、朝倉氏をはじめとする武将たちの戦いの歴史、浄土真宗寺院の勢力争いにスポットを当て、鯖江の地域や人々のルーツを検証し、地域史解明の一助とした。第2展示室では「朝倉氏と浄土真宗」をテーマに闘争の歴史を紹介し、第3展示室では「京への道—北陸道」をテーマに朝倉氏滅亡後のまちの発展の歴史を紹介した。

特に、現在、浄土真宗の本山が2ヶ寺存在する鯖江市域では一向一揆関連史料も多数保存されており、本展では戦国大名と宗教勢力との間で交わされた合戦および戦後処理をめぐる文書類を中心に解説した。

また、期間中には展示解説会（3回）、関連

歴史講座（3回）、記念講演会および関連イベントを開催した。関連イベントは、主に子どもたちの参加を見込んだものを企画し、甲冑着付体験では外国人の参加もあり好評であった。古戦場バスツアーでは桶狭間・関ヶ原・姉川等の史跡を見学し、映画やテレビドラマに登場した歴史的な戦場に思いを馳せた。

講演会では、展示資料のご協力もいただいている井伊達夫氏（京都井伊美術館館長）に「井伊直虎・直政そして忠直卿—武辺徒然草—」をテーマに興味深い講演をいただいた。



展示室 2



展示解説